

※会場がいつもと異なりますのでご注意ください。

(1)南部バイパスより入構し、料金 200 円（各自負担）をお支払い下さい。

(2)先着 50 名様には入構カードを学生が用意しています。200 円と引き換えに領収書と入構券をお受取り下さい。

(3)4 月 1 日(月)より敷地内全面禁煙となりました。

令和元年 11 月 12 日

各 位

軟弱地盤研究会（第 156 回）のご案内

軟弱地盤研究会
会長 日野剛徳

日 時：令和元年 11 月 28 日（木）14 時～16 時

場 所：佐賀大学本庄キャンパス 理工学部 6 号館 DC 棟 2 階多目的セミナー室
（〒840-8502 佐賀市本庄町 1 電話 0952-28-8612（日野研究室）

<http://www.saga-u.ac.jp/gaiyo1/campusmap/>

（※キャンパスマップ中 29 番の建物です）

話 題：実務における圧密沈下予測における課題－汎用ソフト利用の落とし穴－

講演者：諏訪技術士事務所 諏訪 靖二 氏・大成ジオテック（株） 福田 光治 氏

概 要：講師から下記の概要をいただきました。

実務における圧密沈下計算は、コンサルタントから施工会社に至るまでほぼ汎用ソフトが用いられている。同汎用ソフトの原理は Terzaghi の次元圧密理論、ならびにサンドドレーン工法等で適用される Barron の理論解に基づいている。

簡易的な圧密沈下計算は：① 沈下量；② 時間～圧密度の関係；③ ①と②の合算による時間～沈下量、によって行われる。汎用ソフトはその過程を踏襲するに過ぎず、理論解（偏微分方程式）そのものを数値解析しているわけではない。

Terzaghi モデルはあくまで一層モデルであり、多層地盤の場合は圧密係数の平均化が避けられない。同平均化は熟練の技術者でも悩み抜く問題にも関わらず、汎用ソフトはこともなげに平均化する。

本講演では圧密沈下計算の実態に迫り、なぜ換算層厚法を用いてはならないか強調し、議論を繰り広げたい。

※参加希望の方は必ず事前にメールまたは FAX でご連絡ください。当日の申込みはできるだけご遠慮ください。

※参加費：当研究会の個人会員および特別会員は参加費無料。それ以外の方は資料代（¥1,000）が必要です。

※参加証明書は研究会終了後に受付にて必要な方に配布します。

軟弱地盤研究会事務局

担当：喜連川 聰容（Kirekawa Toshihiro）

E-mail: asgt@sagacat.or.jp

URL: <https://www.sagacat.or.jp/asgt/index.html>

Tel:0952-26-1668/Fax:0952-26-1669

〒840-0857 佐賀市鍋島町大字八戸字上深町 3182

（公財）佐賀県建設技術支援機構内